

地域丸ごと政府の監視対象 「土地利用規制法」は廃止に

6月16日に閉会した2021年度通常国会で、「土地利用規制法」が可決しました。

宇治駐屯地と大久保駐屯地を抱える宇治市にとっても、地域が丸ごと政府や自衛隊の監視対象におかれる、危険な法律です。

宇治では4万人以上が「監視」対象

この法律では、内閣総理大臣が米軍や自衛隊基地など「重要施設」の1キロを「注視区域」に指定し、区域内の住民、土地所有などすべての住民を監視の対象とします。

宇治駐屯地から1キロの距離は、五ヶ庄地域の大部分、木幡地域、槇島地域の一部などが入ります。

また、大久保駐屯地から1キロの地域には、大久保町や伊勢田町、緑ヶ原地域の大部分、広野町の一部が入ります。

約18万人の宇治市民のうち、少なくとも4万人以上が「調査」「監視」の対象となるのです。

「調査」内容も政府判断で際限なく…

「調査」「監視」の対象となるとどうなるのでしょうか。

政府や自衛隊は、安全保障上「不適切」な土地利用がおこなわれていないかを「調査」します。

「不適切」な土地利用かを判断するうえで、必要な情報として、住民や土地所有者の氏名や住所、国籍だけではなく、職歴、信仰している宗教、所属団体、家族構成、友人関係など多岐にわたる可能性があります。「調査」の対象項目は政府の政令で定められます。際

限なく調査項目が広がる可能性があります。

宇治市も政府から情報提供を求められたら、住民情報を提出することが義務付けられています。

「機能阻害行為」で懲役刑も

また、土地利用が基地や駐屯地の「機能阻害行為」にあたる場合は、住民や土地所有者が懲役刑まで課されます。

しかし、どういった行為が「機能阻害行為」にあたるかも、政府の政令で定められるため、罪となる行為は法律に明示されなければならない罪刑法定主義に反しています。

すでに自衛隊は、宇治駐屯地で610人、大久保駐屯

地で150人の隣接者の調査をおこなっていることも、野党に提出された防衛省資料であきらかになっています。

地域が丸ごと監視される土地利用規制法は廃止をめざし、日本共産党は奮闘します。

令和3年4月30日
防衛省

防衛施設に隣接する土地の調査に関して、調査した自衛隊及び米軍の約650施設的所有者数

【自衛隊施設】

防衛施設	所有者数
防衛省庁舎	530
陸上自衛隊札幌駐屯地	370
自衛隊横山山麓入所施設	0
陸上自衛隊宇治駐屯地	330
陸上自衛隊今津駐屯地	
陸上自衛隊大津駐屯地	150
陸上自衛隊大津駐屯地大津自動車訓練場	
陸上自衛隊大津駐屯地	160
陸上自衛隊福知山駐屯地	
陸上自衛隊福知山駐屯地福知山訓練場	80
陸上自衛隊福知山駐屯地福知山訓練場	
陸上自衛隊宇治駐屯地	240
陸上自衛隊宇治駐屯地分屯地	
陸上自衛隊久保駐屯地	230
陸上自衛隊八尾駐屯地	
陸上自衛隊八尾駐屯地	610
陸上自衛隊宇治駐屯地分屯地	150
陸上自衛隊宇治駐屯地分屯地	160
陸上自衛隊伊丹駐屯地	320
陸上自衛隊伊丹駐屯地分屯地	
陸上自衛隊伊丹駐屯地分屯地	390
陸上自衛隊千歳駐屯地	
陸上自衛隊千歳駐屯地	420
陸上自衛隊千歳駐屯地	30
陸上自衛隊千歳駐屯地	200

8/17

防衛省の文書

日本共産党宇治市議員団
議員団だより

2021年7月1日 TEL:0774-22-3141